

## 9 1 1 同時多発テロ事件の矛盾と日本における報道

先日アメリカ人の友人から、9 1 1 同時多発テロ事件について質問された。「日本人はこれをオサマ・ビン・ラディンらアルカイダによるテロ事件と考えているのか？」と。

開業直後であった2001年当時、私はテレビで映し出されたワールドトレードセンター（WTC）への飛行機の衝突とその後の経過に驚き、テロの怖さを感じた。4機が同時にハイジャックされ、飛行機爆弾として使用されたのであった。飛行機の追突でWTCの2つの建物があのような速さで崩壊することは、内部に爆弾をしかけられた可能性はどうかとは思っていたが、日本の報道情報から事件自体にもそれほど不審にも思わず、過去に9 1 1 同時多発テロ事件を自分自身で調べたこともなかった。

今回、彼が話してくれた9 1 1 同時多発テロ事件の一部である、第7ビルの崩壊については、私自身も知らなかったし、また日本ではあまり報道されていなかったように思えた。WTCは7つのビルからなっており、崩壊した2つの高いビルとは100mくらいはなれた1980年代に建てられた新しい第7ビルが、同日の夕方に2つのビルと同じように突然に崩壊したのである。第7ビルは飛行機の衝突ではなく、軽度の火災のみで、一瞬のうちに崩壊することは考えられない。そして、この2ヶ月、単行本や、ネットから9 1 1に関する情報を集めた。

私は、自国民を大量に殺戮する陰謀なんて、国家がそんなことに関与することはないと思っていた。この短い紙面で9 1 1 同時多発テロの矛盾点を指摘することはできないし、この投稿の目的ではない。興味のあるかたは、文末の文献を参考にし、まずペンタゴンに激突されたとされるユナイテッド177便の情報から集めると矛盾を理解しやすいと思う。事実を並べてみると、陰謀かどうかの判断は難しいが、アメリカ政府の説明は矛盾だらけであるのに気づくのは誰にでも容易である。

日本人の私たちの感覚からすれば、自分の財産のために多くの無実の人たちの将来を奪うことは考えられない。9 1 1 同時多発テロが、政府関係者の関与があれば、積極的および消極的も含めて多くの共犯者を作らなければ実施できない。政府高官、軍の関係者、ペンタゴンの職員、乗っ取られた飛行機をみたとの証言をした一般人、など協力者は、時間の経過とともに自分がこの事件に荷担したことを理解し、良心の呵責にさいなまれないのだろうか？残念ではあるが、そのような行為を行った多くの人々がアメリカにはいるということなのだろう。それとも、それを気にしないで生きていけるというのは、共犯者はひとりではないという群集心理なのだろうか？

アメリカの報道機関が情報規制されていたのは明らかであったが、日本でも以下のことがあった。

2001年の10月に、WTCで死亡した人間の国籍を調べてイスラエルの方が死んでいないということを発表したNHKのコメンターターが、その5日後に自殺したということも知った。自殺かどうかについて、警察はきちんと調べていないこともわかった。

2008年に民主党の藤田議員が、911同時多発テロ事件についての疑問、矛盾を国会で質問したが、なぜかNHK中継はされなかった。答弁した当時の福田首相以下は、24人の日本人が死亡し、日本がイラクなどに自衛隊を派遣した理由であったにもかかわらず、アメリカからの報告が正しいとし、独自の検証はしていないということだった。

先月のおわりにも、NHKから911に関する番組があった。ブッシュ大統領が9月11日にどのように行動して、テロに立ち向かおうとしていたかの話しであった。アメリカ政府の可能性などには全く触れられていなかった。

社会情勢を知るために、新聞やテレビの情報は十分であろうか？日本においても、極めて重要なことは秘密にされ、報道も制限され、異なる視点からの議論はできない。正論をとらねれば、国家の重要案件なら暗殺される可能性もある。日本の為政者も報道関係者も、極めて重要なことに関すればアメリカに反して自分の意見を言えないのだろうか？

上記の事実を考えると、明らかな言論統制をされている北朝鮮、中国とは異なるが、日本も恐ろしい社会のように思える。しかし、グローバルな2017年の世界のなかで、国家というものは元来そういうものかもしれない。

これに比べると、森友・加計問題の議論は些細なことのよう思える。

#### 参考文献

- 藤田幸久 9. 11テロ疑惑国会追求 クラブハウス
- 菊川征司 9. 11テロ完全解析ー10年目の超真実ー
- デビッド・レイ・グリフ 9. 11事件は謀略か

2017.11.9